

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2271100923
法人名	メディカル・ケア・サービス(株)
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道
所在地 (電話番号)	沼津市我入道江川5-1 (電 話) 055-935-0631
評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年5月30日

【情報提供票より】(20年 5月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日			
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計 27 人		
職員数	19 人	常勤 19 人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人		

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	RC造り	
	3階建ての	1 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,500 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	有(200,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(20,000円)	有りの場合 償却の有無	有(2年間)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 850円		

(4)利用者の概要(5月 15日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	8 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低 71 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 真養会田沢病院・なつニューロクリニック・幸歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全国展開でグループホームを運営している法人であり、県下には4ヶ所を有している。法人として地域との関係を大切に考えて取り組んでいる。また、利用者のA DL低下を防ぐ支援を行っており、利用者の笑顔や穏やかな表情から対応の良さが汲みとれ、家族からの信頼も高い。ケア日報には、その日のヒヤリハットを記入し、気づきは小さいうちに皆で共有し、支援に繋げている。運営推進会議は、地域住民・市との連携により行い、同業者との交流も定着し、サービスの向上につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	排泄介助面で、大きな声での対応やプライバシーが確保されていなかったことについて課題となったが、禁止用語や目上の方への言葉使いの勉強を行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットのリーダーが取り組み、改めて気づくことがあったり、フロー毎の見直しができている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	消防署員4人に来てもらい、ホームの防火設備等の点検を行い、会議の中で助言を受けた。副署長より「施設の中の様子が見られた事は、いざという時活動しやすい。どんなに設備が整っていても事故や災害は起こる。役割分担を決めておくと良い。」という指導があり、参加者間での共通の認識を持つことができた。運営推進会議での内容は、記録し、全職員で共有し、サービス向上に活かした取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書等で苦情相談窓口について明示し、利用者・家族に説明し玄関にも苦情受付先を掲示している。意見箱を設置しているが、ほとんど入っていない状況であるため、家族の訪問時に口頭での意見をもらったり、運営推進会議時に意見を出してもらえるよう働き掛けを行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民として、自治会へ加入し、祭りや防災訓練に参加している。また運営推進会議で自治会を通して行事等の参加の呼びかけを行っている。日々の散歩時地域の人と挨拶を交わす等交流を図っている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中の一つに「さまざまな機会を通じて、地域の人々とのふれ合いを大切にします。」を掲げ、利用者が地域の中で暮らしていく支えとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内の目につく所に理念が掲示しており、日々職員に意識づけをしている。ユニット会議やリーダー会議で唱和し、常に理念に添った実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際、近隣の人と挨拶を交したり、お花をもらう等の交流がある。買い物は、ホームから歩いていける範囲の店へ出かけている。また、自治会に入って地域の祭りや防災訓練に参加している。	○	自治会長と密に連絡を取り、地域やホームの行事への参加等を通して地域との結びつきを深めることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、ユニットリーダーは評価の意義を理解し、取り組んでいる。前回の評価結果はユニット会議で反省し、改善に向けて問題点を職員で共有している。改善項目をピックアップし対応に取り組み、本社にも報告している。	○	前回は全職員で評価に取り組んだが、今回は各ユニットリーダーが取り組んでいる。毎回全職員で評価を行い、具体的な改善や見直しに繋げていくことを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の参加者は利用者、家族、地域代表、消防署・他グループホーム・地域包括支援センターの職員、ホーム長、ケアマネージャー、ユニットリーダー等で構成されており、ホームを知ってもらう機会となっている。議事録は適切に作成され、会議内容はリーダー・ユニット会議で伝え、全職員が把握している。議事録は、家族が面会時、見ることができるよう玄関に置いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携に積極的に取り組んでいるため、相談がしやすい関係が構築されており、サービスの質の向上に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「はまかぜ」を毎月写真入りで作成し、近況報告を添え、小使帳のコピーと一緒に送っている。小使帳は面会時にも確認してもらっている。受診状況や体調変化があったときも、電話で頻繁に報告している。	○	職員の異動について、毎月のお便りの中で伝える等の家族への報告の仕方を工夫されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、家族会はないので、市から設立について要望がある。本社から家族にはアンケートを年2回行い、意見を集めている。また、運営推進会議には家族の代表が出席し、意見を出してもらっている。	○	家族会を作ることにより、家族同志の話し合いから本音や要望が出てくるため、設立に向けての支援を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	去年は離職者が多かったが、現在は落ち着いており、利用者には職員の異動等のダメージを与えないよう最善の努力と配慮をしている。新人職員については、家族が面会した時に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は積極的に促し、勤務として出席している。研修報告は記録がきちんと行われ、回覧により全職員で共有している。また、法人内の研修はビデオを見て感想を出している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域包括支援センターのブロックで分けたグループの中では南部6ホームに属しており、連絡会議が2か月に1度行われ、密に相互訪問や交流ができています。運営推進会議にも他ホームに参加してもらったり、新人職員を連れて他のホームへ訪問等の交流がある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学は、本人と家族と一緒に来てもらっている。また管理者・ケアマネジャー・ユニットスタッフで自宅を訪問し、生活情報を集めている。利用者はデイサービスを装いそのまま泊りの形をとったり要望により家族も一緒に宿泊ができる。慣れる迄の間、利用者によっては家族に頻繁に面会をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族にセンター方式のシートの記入をお願いし、情報を得て、アセスメントを行い、その人に合った支援を行っている。言葉使いは、プライドを傷つけないよう注意することを心掛けている。利用者から季節の行事、花や野菜の手入れ、作り方を教えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを利用している。また、入居後も家族からの情報収集に努め、利用者の希望や思いは、日常の会話や行動から情報を多く集め、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは、入居前の段階で暫定的に立てており、入居後の生活を見ながら必要に応じて見直しプランを作成している。また、毎月のユニット会議でモニタリングを行い、ケアプランを作成し、家族に伝えている。利用者のケアプランは生活の様子を記録している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、介護計画の見直しを行っている。変化が生じた場合は、速やかに家族と話し合いを行い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	バイタルチェックを朝・昼行い、午前中体操・散歩、午後入浴の支援を行っている。規則正しい生活が送れるよう支援を行うことによって、利用者の要介護度は軽くなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者27名中25人は協力医がかかりつけ医となっており、協力医師との連携を密にしている。24時間いつでも対応できる体制があり、不用薬は使用しない方針である。個人でのかかりつけ医への受診や判断の必要な時は家族が付き添っている。受診内容は記録に残し、家族へ電話連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期は、ホームとして医療的な対応が難しいため、契約時に本人・家族とかかりつけ医で話し合っ決めていく。利用者の中には、ぎりぎりまでホームの居室で家族が付き添い、最後は自宅に帰られたケースがある。職員はやれる事はやるが、出来ない事の約束はしない方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いには特に注意し、禁止用語や目上の方への言葉使い等を勉強し、プライバシーを損ねない支援を行っている。特に排泄の対応はプライバシーを考慮し、他の利用者と重ならないように誘導の支援をしている。個人情報の記録は目の届かない棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	嗜好・体操・散歩・入浴等、1人ひとりのペースを大切に、希望に添った支援を行いながら、規則正しい生活が送れるよう支援している。やりたいことを見つけることが難しい利用者が多いが、居室で絵を描く利用者もいる。また、食事の時間は決まっているが、個々のペースに合わせて時間をずらす等工夫している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者で調理室で調理を行い、一緒に食事をしている。月1回選択メニューとして、菜園で取れた季節の物を摂り入れて料理を作る調理レクがあり、利用者の楽しみとなっている。外食は希望を確認し、ユニット全員で出掛けている。開設以来4年続けている食事会は家族も参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞き予定を立てているが、その日の希望に合わせて支援している。入浴の時間は、午後となっているが、入浴を嫌がる人には職員を変えて誘ったり、時間をずらす等工夫した支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳や片付け・食器拭き、清掃、菜園の手入れ等利用者の役割がある。また、買い物や外食等の支援を行い、利用者の楽しみとなっている。ホーム内の飾りは利用者と一緒に製作された物がセンス良く飾られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や外食、本屋や図書館等希望に添った外出支援を行っている。月1回の外出・外食は利用者が楽しみにしており、スタッフは利用者の生活がマンネリにならないよう外出の計画を立てている。また、家族の協力があれば、一緒に行きたい所へ出かける利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階3階は鍵をかけず、エレベーター移動も自由であるが、自宅が近所で道路を横切ってしまう利用者がいるため、事務員のいない時は、1階ユニット入口を施錠し、玄関は開けている。施錠はなるべくしたくないので利用者が不穏な時は、付き添うようにしている。	○	地域と連携を図り、日中施錠をしない安全な支援に向けた体制づくりを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行い、毎回消防署へ防災訓練計画を提出している。夜間緊急連絡網及び夜間(3人体制)訓練を行っている。備蓄は食料・水共に用意し、保管場所は職員へ周知している。運営推進会議で避難訓練等の報告し、自治会には当施設を避難所・福祉避難所とする旨を伝えている。	○	訓練には地域の人や運営推進会議出席者にも参加してもらうことによって、第三者の視点での反省点や気付きが見つかることもあるため、協力体制づくりを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養士が行い、利用者の状態に合った食事を提供している。個々の食事・水分摂取量は記録し、水分不足の人には、ゼリー対応や夜間に水分補給を行っている。朝起きた後は必ず水分摂取の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く明るく、壁面には手作り品が飾られている。天井には季節感のある涼しげな飾りが下げられていたり、居室入口には花が生けてられていたり、家庭的な雰囲気のあるホームづくりに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には、使い慣れた家具・調度品が置かれ、立派な仏壇を置いている人もおり、個性のある居室となっている。		